

分野	53	循環型社会	通番 133
施策	532	ごみの減量と適正処理	
5年後の目標		市民と行政の一体となった取り組みにより、ごみの減量・分別と適正処理・リサイクルがいつそう進んでいる。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)	予算科目			決算額(円)	担当課	
	一般廃棄物等の適正処理 及び減量化啓発事業	会計	款	項	目	610,899,327	環境業務課
		一般	4	2	1		
	事業の概要						
平成29年度に「減らす」、「育てる」、「考える」を基本コンセプトとして改定した長岡京市一般廃棄物処理基本計画に基づき、生ごみや紙ごみを中心に更なるごみの減量化とリサイクル推進のための啓発活動を実施します。 また、保育所、小学校への出前授業を通して、資源を大切にできる人を育てます。							

令和元年度の取組						
D (取組)	指標(～H29年度)	家庭系ごみ(可燃)1人/1日あたり排出量				単位 g
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1
	471(平成26年度)	目標	449	445		2
		実績	454	448		
	指標(H29年度～)	ごみの総量				単位 t
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1
	21,877 (平成27年度)	目標		21,205	20,869	20,533
		実績		21,441	22,107	22,382
	・乙訓環境衛生組合にてごみの処理を適正に行いました。 ・平成30年8月に出された長岡京市廃棄物減量等推進審議会からの答申において、手数料を付加しない透明・半透明の指定ごみ袋制度を導入する旨が示され、令和3年2月からの指定ごみ袋制度導入に向けた説明会を32回実施しました。また、指定ごみ袋製造事業者2社の承認を行うとともに、市内スーパーにおいて啓発キャンペーンの実施や、小売店に指定ごみ袋の販売協力の通知を行いました。 ・給食調理くずリサイクル事業では、新たに保育所3園、南部共同調理場（八小と三中）、六小で開始しました。全体で保育所5園、小学校3校、中学校3校で実施しました。 ・食品ロス削減に向けての取り組みを推進するため、市民活動団体「フードバンク長岡京」への活動支援を行いました。 ・アゼリアエコチャレンジプロジェクト～環境への想いを絵にしよう(長岡中央商店街振興組合、教育委員会と共催)では、市内の小学4年生の絵画762作品から選んだ4点を車両2台にプリント描写しました。					出前授業の様子
						

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和元年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標		評価指標の傾向・トレンド
		ごみの総量		ごみの総量については、景気等の動向に左右されやすく増加傾向にある。
	達成度合	B:目標をほぼ達成できた(目標の80%～100%程度)	達成状況	・ごみの総量が1.2%増の22,382t(30年度22,107t)であり、内訳としては家庭系ごみが0.7%減の15,889t(30年度15,996t)、事業系ごみが6.3%増の6,493t(30年度6,111t)でした。
	課題等	新たなごみ減量施策として、指定ごみ袋制度(令和2年8月移行期間開始、令和3年2月導入開始)に取り組みます。十分な周知のためには市民の方への丁寧な説明が必要となります。		

目標達成に向けての次年度以降の対応	
A (行動)	方向性
	対応策等
	1:計画通りに進めることが適当
	・長岡京市一般廃棄物処理基本計画に定めた目標(減量化、再資源化、最終処分量削減)に向けて、3つのコンセプト(減らす、育てる、考える)に基づき、ごみ減量施策を実施していきます。 ・「考える」のコンセプトにおける「ごみ減量を推進するためのごみ袋のあり方」について、廃棄物減量等推進審議会での答申内容を踏まえた指定ごみ袋制度の本格導入に向けて、説明会や啓発キャンペーン等を引き続き実施するとともに、違反袋に対する対応や収集体制の構築を整備します。

分野	53	循環型社会	通番 134
施策	532	ごみの減量と適正処理	
5年後の目標		市民と行政の一体となった取り組みにより、ごみの減量・分別と適正処理・リサイクルがいつそう進んでいる。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課
	分別によるリサイクル推進事業		会計	款	項	9,620,448	環境業務課
			一般	4	1		
	事業の概要						
	ごみを減らす施策として、地域の集団回収の中から市民や事業所にも開放していただける古紙の拠点回収場所を登録いただき古紙のリサイクルを推進します。 また、資源の有効活用と減量意識の高揚を図るためには市民参加型のごみ減量施策が重要であるため、自治会や各種団体など地域レベルの活動に対する支援を行います。						

令和元年度の取組						
D (取組)	指標	再生利用率 (資源化量+集団回収量)/(ごみの総量+集団回収量) × 100				単位 %
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1 2
	14.9(平成26年度)	目標	24.4	25.0	18.0	19.0 20.0
		実績	14.6	14.2	13.9	13.4
	・市民や事業者が古紙を排出しやすい環境を整備するため、従前から取り組んでいる古紙回収の拠点回収場所の拡大を図りました。 ・「スペシャルオリンピックス日本」応援プログラムに新たに取り組みました。携帯電話145台を含む16.8kgの小型家電を回収することができました。 ・「宅配便を活用した使用済み小型家電の回収サービス」で、パソコン489台を含む約4.6tの小型家電を回収することができました。 ・リユースショップ実行委員会とともに、環境フェアと乙環リサイクルフェアにて「リユースショップ」を開催し、約260kgのリユース品を提供することができました。				携帯電話回収ボックス(市内5か所) 	

施策の「5年後の目標」に対する評価						
令和元年度の達成状況						
C (評価)	評価指標	関連する評価指標		評価指標の傾向・トレンド		対応頁
		リサイクル率		近年における電子媒体の普及によるペーパーレス化により古紙の回収量は年々減少傾向です。		212
	達成度合	B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	・令和元年度のリサイクル率の目標は19.0%ですが、実績は13.4%と、目標数値と比べて5.6%下回りました。 ・古紙等の集団回収量は1,798 t で、前年度(1,914 t)と比べて116 t 減少しました。 ・市役所敷地内の拠点回収場所での古紙等の回収量は15,860kgで、前年度(15,000 kg)と比べて860kg増加しており年々増加傾向です。		
	課題等	・リサイクル率の目標数値を達成するため、ごみ減量及びリサイクル率の向上に向けた新たなごみ減量施策として取り組む指定ごみ袋制度(令和2年8月移行期間開始、令和3年2月導入開始)を通して、分別を促進する必要があります。				

目標達成に向けての次年度以降の対応						
A (行動)	方向性		対応策等			
	1: 計画通りに進めることが適当		・長岡京市一般廃棄物処理基本計画に定めた目標(減量化、再資源化、最終処分量削減)に向けて、3つのコンセプト(減らす、育てる、考える)に基づき、ごみ減量施策を実施していきます。 ・「減らす」において、現在保育所5園、小学校3校、中学校3校で実施している給食調理くずの再資源化の施策を全小中学校で実施します。 ・指定ごみ袋制度の導入によって、分別収集に対する意識を向上させ、リサイクル率の目標数値の達成を図ります。			